

## 96年・たんぼ報告書

### 野川で遊ぶまちづくりの会・たんぼ班

96年のたんぼ作りは、「あの朝、4時に起き、会社を休んで田植えをした年」ということで記憶に残るだろう。「収穫が例年の6分の1の20kgだった年」だとも。

そして何よりも、「6月半ばから毎土日、水を求めて農業高校の湧水地点から、井戸をもつ個人宅・農家、上流の水利権をもつ農家、などをかけずりまわった年」として忘れられないだろう。ひび割れたたんぼの光景とともに。

例年の2週間ほど遅れた7月半ばに田植えし、その後の水も切れず一安心していた。

ところが8月のお盆明け、帰省から戻ってみると、稲の葉はメイガの幼虫に食われ、丸められてギザギザの笹団子のようにになっていた。

慌てて殺虫剤を撒いたところ、タンク内に残っていた除草剤のため、丹念に散布した列は翌日きれいに葉が枯れてしまった。

まさにそれまでの3年間の「順調」ぶりは偶然が3度重なっただけだったのが良くわかった1年だった。

予期せぬ事態に振り回され、自分でも何をやっているのかわからなくなるような1年だった。

3年間「お客さん」扱いしてくれたたんぼと自然が、突如として本来の気難しく、扱いづらい姿を表した記念すべき年だったのかもしれない。

米屋で買ったもち米しか用意できなかったが、それでも収穫祭は例年通り盛況だった。

若い人、新しい人の顔があるとそれだけでたんぼに活気があふれた。

97年度からは、広く浅く参加を呼び掛けたい。われわれは所詮素人。少しでも興味のある素人ができる範囲で参加する、会の原点に戻る年にしたい。

近辺の皆さん。当会のたんぼのある地域は調布でも珍しく、農地がまとまって残り、生物の種類・数の多いところ。空気が住宅過密地域と若干違います。

土をいじってみたい方、泥遊びしたい子、田植えしたい人、餅をつきたい人・食べたい人。たんぼに集まってください。

スケジュールは別紙の通りです。

6月15日しろかき、16日田植えを予定していましたが、水不足でできませんでした。その翌週も同じような状況で、まもなく6月末をむかえようとしています。会員の皆さんには田植えをやる・やらないの連絡でご迷惑をおかけしましたが、この間のたんぼの状況についてご報告します

1. 6月の天候と水の流入
  - 13日…朝の雨でたんぼの表面が水没する（同日夕方しみこむ）
  - 18日…午前中の雨で多少の流入がある。

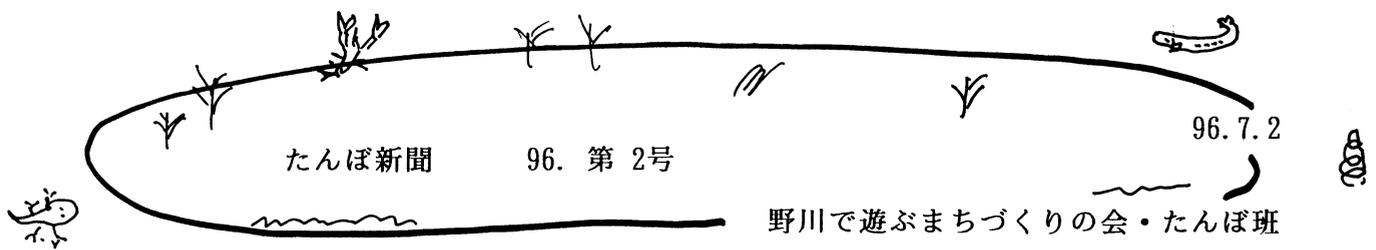
## 2. 作業状況など

- 15日 朝、水路から水が入っていない状態。田植え中止を会員に連絡。
  - ①水利組合の水路清掃…たんぼ横の水路の年1回の泥さらい。地域の農家が勢揃い。うなぎ、ふなが捕れた。
  - ②湧き水の状況…農業高校へ行って、水を貰おうとしたが、「湧き水が不足して、養殖にも事欠いている。余っていたら、既に流してるよ。ポンプを使って、水をかき集めれば。」とのこと。田植え可能と思い、翌日の田植えを会員に連絡。
  - ③ポンプで水あげ…竹内さんの水中ポンプで、用水路の水をたんぼにいれる。とても足りない。再度田植え中止を会員に連絡。
- 16日 ①ポンプで水あげ…子供たちの泥遊びと、多少の水補給の意味で、ポンプで水あげをする。
  - ②苗の手入れ…追肥。雑草取り。水掛け。
- 22日 ①竹内さんと相談…「上流の農家へ水を貰いに行ってきたが、湧き水不足で、ほたる園の中の井戸水を出して貰っている状態。雨を待つしかない？」とのこと。
  - ②村越平八さん宅へ…尾辻さんが井戸水を貰えないかどうかお願いに行く。「うなぎの養殖をやめて以来、水中ポンプを止めてしまい、動かない状態」といわれる。
- 23日 ①竹内さんと相談…「取水口の穴を低く開けなをせば、1度しろかきをしないと、水を何度入れてもしみるだけ」とのこと。
  - ②苗の手入れ…追肥、雑草取り。葉先が少々黄色くなる。3分けつ、5～6葉期。田植えに最適の状態。植えたらさぞよく育つだろうと思われる。
  - ③隣のたんぼの富沢さんに聞く…除草剤をまきに來ていたので話す。「大雨が来れば田植えができるのであきらめていない。7月になっても大丈夫。」とのこと。もしたんぼがだめなら蕎麦を蒔かせてくれないかとたのむ。「考えておく。」とのこと。

## 3. 対策

- ①雨の日にしろかきをする…雨が降り、水の流入があった場合、平日でも参加可能な人が集まってしろかきを済ませる。
- ②取水口を改修する…竹内さんのように、取水口の穴をうち直して、用水路の水が全部入るようにする。
- ③用水路の砂利を除く…少しの水の流れでも用水路にスムーズに流入するよう、用水路のトンネル部分の砂利、ごみを取り除く。
- ④村越さんの排水を貰う…村越さんから流れる少量の排水を下水に流さず、用水路に流して貰うようお願いする。

7月7日まではあきらめず、水田の実現に努力しようと思います。田植えが可能になった場合には急きょ連絡網を回しますので宜しくお願いします。



とうとう7月に入りました。田植えの予定を過ぎること丸2週間となりました。この間雨らしい雨がなく、また用水路の流れに勢いはなく、しろかき・田植えすることができません。苗の方は若干伸び過ぎになってきましたが、色も濃く、軸も硬いよいものが出ています。田植えをしたらさぞやりやすいだろうなと思われまます。

1. その後の作業 30日…①取水口を改修し、用水路のたまり水がほとんどたんぼに流れ込むようにした。  
②たんぼの奥2メートル程を耕耘し、そこへ水を誘導して一部だけでもしろかきができないかやってみたが、とても水が足りなくてダメだった。

2. 関係者に話を聞く

30日、尾辻さん、依田さんと大木で、上流のたんぼ農家などを回り話を聞いてきましたので、要点をご報告します。

①篠宮さん…晃華学園の近くの家に伺い、たんぼの堰を少し開けてくれないか頼む。「うちのたんぼの必要量さえない。下流の相田さんも必要なのに、その前におたくらにあげることはできない。現在、加納さんと上流の相田さんとで堰をかる時間帯を決めてやりくりしている。」

②高瀬さん…農家ではないが、地下水汲上げのポンプを持っており、日中作動させて、ほたる園経由用水路に流している。カニ山ゲートボール場の近くのご自宅に伺う。

「このポンプは下流の相田さんが掘った。100メートル。自動スイッチの音がうるさいので、夜は作動させていない。高速道路ができて湧水量が減った。この地下水も相田さんのたんぼに届く前に上流のたんぼに使われている状態。市の方からでも要請があれば、全日の作動を考えてもよい。」

③村越平八さん…当会のたんぼの上流の農家で、僅かながら余り水を下水に流している。その水を用水路に流してくれないかお願いに行く。

「あのくらい流しても素堀の水路にしみこむだけ。それより重十さんの畑の横の水路から水を上げて使えば。」

④村越重十さん…水利組合長の重十さんに了承をとりに伺う。重十さんの代わりに息子の久男さんに話を伺う。

「その水路の水は、うちの堰の下だからうちのものではない。ただしあの水を上げたら、生物が困るだろう。うちも苗を作っているが今年は植えられないだろう。雨水が頼りだが雨水は高速道路の排水を含むので、オイルなどが流れてくる。もともと6月中旬の田植えというのは稲作にとってギリギリのタイミング、7月に入って日照時間も減少する中で田植えしても収量は自ずから限られる。苗は石灰を使わない場所に作るのが肝要。地域も昔は水苗代だった、途中で水が切れると苗取りの時、根が切れるので、用水路の水量が減ってからは畑苗代になった。佐須街道沿いのマンションができたなら風向きが変わったり影響はあるだろう。地域も変わり始めたらアッという間に変わるでしょう」

3. 結論

高瀬さんのポンプをフル稼働させたとしても、上流のたんぼを潤し、次に待っている相田さんの陸稲の散水に使われ佐須の方までは回ってこないだろう。

(相田さんは陸稲の散水のため年間を通じて、しろかき・田植え方式より結果的に多量の水を必要とし、堰はフルシーズンか買ったままだろう)

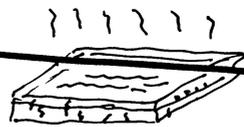
当会としては雨を待つしかない。しろかき可能な水量が入れば、平日でも早朝から作業を行う。(一部しろかき可能な状態を含む)

4. 来年以降に向け

①井戸堀…佐須に農業用の井戸を掘れないか、考える。(竹内喜好さんの畑で掘ったがでなかったことありとか)

②用水路保全…重十さん横の太い水路の分厚い堆積泥を2分の1程度除去する。細かい水路のトンネル部分の泥・砂利を除き、流れをよくする。

③深大寺用水の利用…現在でも流れが絶えず、また利用のない深大寺用水をせき止めて利用できないかどうか検討する。



日曜日（7日）夜からの雨で、田んぼに水がザアザア入り、しろかきができました。雨が降っている間はこのままの状態の様子を見、雨が上がってから田植えの予定です。（13日（土）には可能?）。当日は昼食をご用意の上ご参加ください。

### 1. 雨が降り始めてから…

7日（日）…苗代追肥、散水。苗代にひびが入りかけている。  
夜から雨。

8日（月）…朝4時様子を見に行く。田んぼの中の溝には水が満ちているが、しろかき可能なまでにはなっていない。  
夜、田んぼ全体に水が満ちている。用水路を濁流が轟々と流れている。田んぼに水が入り過ぎないようにする。  
村越重十さん、富沢良吉さんまた田中さんがそれぞれの田に水をいれられるくらいの水量が水路にある。

9日（火）…朝4時半、尾辻さん夫妻と大木でしろかきと苗取り開始。  
水が多くて泥の具合がよく分からないが、一通りしろかきし、苗を取って束ねる。掘さんも駆け付ける。畔のひび割れを塗り込む。  
水温は高い。雨が降っているので、十分なしろかきや田植えができないと判断し、雨上がってから田植えをすることに。

苗は硬い土に根を張り、一晩水に漬かった状態であっても取りづらかった。田植え後は少しでも成育の遅れを取り戻すようにさせたい。  
10日（水）…朝、田んぼに水は十分。水路の流量が減った。陸稲にしていた相田さんの田んぼにも水が入った。（田んぼが水を引き受けるとかくも治水ができるのか?、雨量など他の理由で水量が減ったのか?）  
この水量では村越さん、富沢さんの田んぼには足りないだろう。うちの田んぼには浮きごみが多い、すくい取る必要あり。

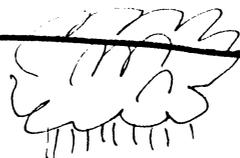
### 2. 予定

7月13日（土）…10時から田植え。小雨決行。靴下を履いてお入りください。  
尚、当日田植えの前に再度しろかきと均しを行いますので、時間に都合のつく方は8時頃からお出でください。  
株の間隔は30センチ×20センチを考えています。30センチごとに縄を移動させますので、各自20センチ間隔で植えてください。  
当日サンプルを提示しますが、大きな苗は1本植え、それ以外は2～3本植えとします。会員以外のゲスト歓迎ですが苗を植えるのは小学生以上とします。また大人の方は手近の子供のご指導を願います。（欠株がないか、深過ぎないか・浅過ぎないか、株数はどうかなど）

### 3. 田植え後の管理

- (1) 深水…今年は苗の背が高く深水管理とする。田んぼから原則として排水はしない。畔のひびに気をつける。子供のいたずらに気をつける。  
土が見えているようだとき水を入れ、十分になったら管に袋を詰めて排水を防ぐ。  
開花時期までは深水を続ける。
- (2) 中耕…活着後、根きりをするが、その際に畝間に溝を作り、水がたまっている状態にし、万一渇水状態になっても土の保水状態が保たれるようにする。
- (3) 追肥…開花時期に追肥をする。

（担当：大木）



田植えが終わりました。今年は水が少なく、当初の田植え予定日（6月16日）から今度の大雨までの間、田植えのチャンスは今回しかありませんでした。朝早くから参加の皆さん、お疲れ様でした。また急な連絡にもかかわらず、駆け付けてくれた皆さんありがとうございました。

1. 大雨が上がって…

- 1 1日（木）…朝7時、快晴、尾辻さんが迎えに来る。「快晴だ、今日しかない。」仕事を休むことにし、8時にたんぼ集合の連絡網。  
尾辻さん、大場さん、大木親子で田植え開始。若干しろかき及び均しに不安があるが、苗を抜いて2日目、炎天下。一刻も早い植え付けが必要と判断。もち米から始める。苗が丈長く硬いので植えやすい。水深は10センチ程度、水温高い。畝間30センチ株間20とし、本数は1～3本とする。痛む腰をさすりながら午前中終了。  
午後からは、依田麗琴さん、田村さん、永瀬さんらが植える。うるち米の苗が足りなくなったので、村越重十さんに貰いに行く。「今年はもうたんぼしない。」とのことで、必要なだけ苗代から取ってよいとのこと、助かる。  
今日これなかった人の分を残し、田植え終了。苗は葉を丸めて強烈な陽射しとたたかっている。
- 1 3日（土）…水の流入がなく、たんぼは高いところが水面から露呈し、軽くひびすら入っている。辛うじて上流からの流れがあるので、スムーズに水が通るように、うちの用水路のトンネル部分の砂利をレーキで掻取る。  
10時から、掘さん、四方田さん、依田さん、幸田さんらが田植え。活着する前に真夏の陽射しにさらされている苗は一部葉先が枯れたりしているものもある。頑張っって貰うしかない。  
終了後乾杯。今年も田植え後の乾杯ができたことにひとまず感謝。
- 1 4日（日）…あとは管理水の心配だが、その後なんとか水が自力で入っている。大雨の影響で湧水が多いのだろうか。田は再び水をたたえている。念の為、乾き易いところの畝間に溝を切っておく。

2. 今後…

- (1) 水入れ…最低限ひび割れ等が起こらないくらいの水量が必要。自力での流入がないような時はバケツで部分的な水の補給を行う。  
自力流入がある場合は最大限流入させるが、逆流に気をつけ、たんぼの水深が十分な時は管に袋を詰めておく。原則的に水の補給は夜間。畔のひび割れ、モグラ穴にも気をつける。
- (2) 補植…時期が遅いことから今年は補植は行いません。
- (3) 根きり…7月28日予定。活着した根に酸素と温度を補給し、また根を下方に伸ばすために行います。今年は雑草が多いかも。

3. お知らせ

- (1) 会費を納めていない方は、係（田村さん）までお願いします。
- (2) 8月23日（金）、24日（土）の「柏野夏祭り」に焼き鳥の屋台で参加します。各日5時からですが、準備（2時頃から）を手伝える方の参加もおまちしています。後日詳しくお知らせしますので、スケジュールリングをお願いします。

（担当 大木）



###



炎天下、苗はグングン育っています。水が切れず、常に10センチ程度の深さでたまっています。浮き草は少ないですが、雑草が多いようです。雑草の育ちをみると田んぼの栄養状態の良さが分かります。時期を見て徐々に浅水としていきたいと思います。尚、浅水でも水分は切らさず、ひび割れ等が起こらない程度の水の補給は行いますので、畔の管理（モグラの穴埋め、雑草刈り）も含め、フォローをお願い致します。

### その後の作業

#### 1. 根きり、追肥… 8月 4日

参加は尾辻さんと掘さん親子のみでしたが、毎年 2回行っている根きり（株の回りの泥をかき回して、根に酸素と温度を補給する作業）をしました。また、盛んに伸長している稲に配慮る為、追肥（化成8号）を5kg 程度行いました。田んぼの水は澄んでいるよりも、泥で濁っている方がそれらしくていいと思いました。

### 今後の予定

#### 1. 虫とり兼生物観察会

日時未定。8月中下旬予定。（決まり次第連絡致します）

去年好評の田んぼの生き物観察会。すでにギンヤンマが飛び、大きなショウリョウバッタが跳ねている夏の田んぼで今年はどんな生き物が見つかるでしょう。捕虫網、籠、バケツを持ってお集まりください。昆虫、水生生物が大好きで、捕獲技術も抜群な大学生の上村君に講師をお願いする予定です。大人は稲の害虫（メイガ類）の幼虫・蛹もつかまえます。

#### 2. 柏野夏祭りに焼き鳥の屋台で参加（8/23～24）

第5回目野柏野夏祭り。主催は同学校開放運営委員会です。祭りの趣旨は地域親睦で、絵堂、下佐須、柴崎の婦人会が盆踊りで参加したりします。また、小学校の校庭を使用しながらも、アルコールOK、鳴りっ放しの「東京音頭」、派手な打上花火（消防団待機）、太鼓ショーと主催者側の個性を反映した、地元色の濃いお祭りで、毎年近所の人でにぎわいます。

当会は（活動費捻出も兼ね）去年焼き鳥の屋台で参加し、4千本完売しました。大人3人が仕事を休み、子供たちに手伝ってもらいながら、暑さと、「東京音頭」と炭火の煙と格闘した、楽しい2日間でした。

今年は食中毒の季節柄、各お祭りで食品関係の出店自粛がありますが、同祭の主催者側は出店者の判断に任せるとのことです。せっかくのお祭りですので、最大限安全に考慮しつつ、基本的には昨年と同規模で出店したいと思います。具体的には、事前に焼き鳥を茹で、完全に熱を通してから焼きます（家庭科室使用可能）。皆さんのご協力を切望致します。（中学生以上の手伝い大歓迎）

### 内容（予定）

- ・本数 計4000本（2000本/日）…他店の様子により減らす可能性有
- ・売値 6本で300円（1本50円）
- ・時間 ☆準備 2時～5時（炭おこし、串茹で、セッティング）  
☆営業 5時～9時
- ・購入品 トリ串、たれ、塩、こしょう、七味、スチロール皿、ポリ袋、備長炭
- ・借り物 焼き台（知人より）、
- ・持ち寄り トレー、団扇、七輪、たれ入れ、看板
- ・必要人数（中学生以上）～特に5時以降～  
☆23日（金）… 焼き手 2人、売り手 2人、交代要員 2人  
☆24日（土）… 焼き手 2人、売り手 2人、交代要員 2人
- ・問合せ 大木（0424-84-4067）～尚8/10～15の間帰省で不在～



気候はすでに秋の気配を漂わせています。付近の田んぼにも穂が出て、早いものはたれ始めています。過去3年間、付近で一番成育のよいといわれた当会の田んぼですが、今年は伸びが悪く、一部枯れて、出穂もよくありません。苗、田植え、水、藻、虫、等々の原因によるものだと思われます。少しでもよい収穫のために今後ご協力をお願い致します。また、柏野夏祭りへのご参加誠にありがとうございました。

## 作業・行事報告

## 1. 虫捕り、消毒… 8月17日

四方田さん、大木で害虫を取る。毎年のメイガの幼虫。今年は一部の株の葉がほとんど食い荒らされるなど被害が尋常ではない。歩き回らずとも体の方向を変えるだけでいくらかも虫が取れる。「虫が葉を食う音が聞こえる。」くらい（竹内さん談）だったようだ。パダン水溶液に展着剤を混ぜて散布する。カマキリ、イナゴ、ショウリョウバッタ、アマガエルなど生き物たくさん。

## 2. 柏野夏祭り… 8月23～24日

今年も参加しました夏祭り。保健所の指導が入り、おにぎりが取り止め、また、ホットドッグの自粛があったものの、おでん、団子、綿飴、枝豆、焼きそば、焼きもろこし、かき氷、ビール、ジュースそして焼き鳥と食べ物出店の陣容は昨年とほとんど同じ。人出も盆踊りも昨年同様の盛況ぶりでした。当会では、家庭科室で焼き鳥の事前ボイルを行い万全を期して出店し、一日目2000本、二日目1000本を完売しました。収益は予想通り低かったものの、行事としては楽しめました。ありがとうございました。

## 収支報告

## ・収入

売上		134,360 (①)
----	--	-------------

## ・支出

材料費	とり串 (3000本)	83,430
	たれ (3缶)	6,180
	塩コショー	185
	トレーほか	3,780
燃料費	木炭	5,314
謝礼	焼き台貸し主へビール券	3,600
夕食費	参加者へ { 大人1000円	16,500
	{ 小人 500円	

支出計	118,989 (②)
-----	-------------

## ・収益

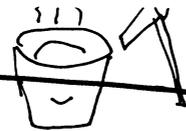
15,371 (①-②)
--------------

## ・報告事項

- ・二日目は夕方雨の予報で、仕入れ量を半分にした。
- ・したがって、炭約一箱、タレ約一箱が余るなど、支出内容は今回の原価を正確に表してはいない。
- ・参加者へは夕食費を入金箱の中から支給した。次回は検討要。
- ・収益はたんぼ班の活動費（収穫祭費用など）としたく。

## ・気付事項

- ・味は好評だった。（ボイルのせいで、あっさりしてよいと言う人もいた）
- ・ボイルすると余分な脂が落ちるなど焼き易かった。
- ・付け焼きをすると美味しいが、炭が消えることがある。工夫要。



用水路を流れてくるもの……ある日、田んぼに水をいれるため用水路水門を開け、田んぼ取水口付近で水の流れを眺めていました。すると来ます来ます。きれいなはずの湧き水と一緒にいろいろなものが。まずゴミ…煙草の吸い殻、ビニール袋。これらは取り去れば済みますが、油膜、藻の塊、得たいの知れぬアクのようなもの…。これらはなるべく田んぼへ入ってほしくないものの、雨の後一番に用水路を流れてくるものでもあります。中央自動車道の排水が混じることはすでに聞いていましたが、きれいだとばかり思っていた用水を改めて眺めるといろいろなことが分かります。皆さんもどうぞ！

### ニュース！ 稲の枯れの原因分かる

かわいそうに枯れて穂が出ない列が幾つもある今年の田んぼ。成育不良の原因は、遅い田植え、虫食い、あるいは浮き草（藻）の発生のためかと考えていたところ、実は殺虫剤散布の際、タンクの中に除草剤が残っていて一緒にまいたためと判明。私の不注意で大切な稲を枯らしてしまい申し訳ありませんでした。現在穂が出ているのは全体の3割程度です。除草剤をかぶった稲は葉が枯れましたが、根が残り、現在はまた新しい緑の葉が出ています（穂はありません）。また、穂が出ない株のなかには、除草剤によるよりも、虫食いで葉がなくなったためと考えられるものがあります。いずれにせよ、列ごとにきれいに枯れたことの原因は判明しました。ご報告がてら、お詫び申し上げます。

### 今後の予定

#### 1. かかしづくり ～ 9月29日(日) 10時集合 ～

残ったわずかの稲を守って貰うため、今年もかかしを作しましょう。田んぼのかかしは実用です。3～4体作る予定ですので、工夫を凝らしてのアイデアを期待しています。当日は古着、帽子、などアイデアに沿った小道具をお持ちください。垂木、釘などは用意します。かかし据え付け後、田んぼ全体に雀避けの糸を張る予定です。

#### 2. 稲刈りなど

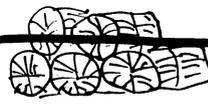
現在の様子から、早くて10月13日、遅い場合は10月20日くらいが予想されます。みのりの状態をみつつ、10月に入ってから日取りを決めたいと思います。稲刈り後は3週間程度はざかけし、そして脱穀、もみすりとなりますので、収穫祭は早くて11月17日くらいになりましょうか。この時期、みなさんの予定が多いと思われるので、ご相談の上、なるべくたくさんの方が参加できる日取りにて行いたいと思います。例年の半分（10kg）程度はもちつきができるだろうと予想しています。

### 雑記

調布市立小学校PTA連合会のソフトボール大会がたけなわです。私が所属する柏野小学校チームも予選ブロックに出場し、見事予選おちしましたが、体を動かすのは非常に気持ちのよいものでした。柏野チームは年間を通して活動することになりましたので、皆さんのチームとも練習試合で交流しましょう。尚、うちのチームの今シーズンの戦績は下記の通りです。

- ・公式戦 対染地小（負け） 対国領小（負け） 対大町小（勝ち）
- ・練習試合 対北ノ台小（勝ち） 対国領小（負け） 対深大寺小（勝ち）

（文責 大木）



脱穀が終わりました。収穫はもち米が30Kg袋に 3分の 1袋、うるち米が 1袋と 3分の 1。例年、もみで12袋くらいとれますから、ざっと 6分の 1。玄米換算で15~20kgの収穫になりましようか。収量がさみしければ、天候もパツとしない1年でした。3週間はざかけした藁がまだ湿っている雨っぼさ。2度ほどはざが倒れたとはいえ、また出穂の遅れた株が稲刈り時点で青々としていたとはいえ、こんなことは4年めで初めてでした。

1 この間の作業

かかし作り…竹内さんのゴミ焼き場に転がっている竹材を素材に、例年とは趣を変えたかかしができました。さみしかった田圃が少しにぎやかになりました。今年から参加の大場さん親子チームのかかしは目立つ色のシャツを着て元気そうでした。雀が飛びながら空中で静止して穂を食べるのを見て仰天。糸を張りました。その後雀の害が落ち着きました。糸を怖がるあたり、やはり雀は雀です。

稲刈り…田圃班 4 回目の稲刈りは落ち着いた（というか盛り上がらない）雰囲気の中で行われました。堀さんが鋸型の鎌を持ってきてくれました。  
 ①茎数は少ないものの穂がたれている株、②一度葉がやられたものの秋になって分けつし青い穂を出しているもの、③すっかりやられてかかっているもの、の3タイプありましたが、一番数が多いのは②のタイプのようなものでした。  
 ②のタイプ、③のタイプの株は田圃にうっちゃり、①のタイプだけ縛ってはざにかけました。はざは2竿にしかありませんでした。  
 野鼠が出現しました。つかまえようとして指をかまれましたが大事には至らず。

脱穀…今年もレトロな脱穀機が活躍する季節がやってきました。運んで、据え付けるまでは手間ですが、動き始めると頼りになります。小学2年の大木悠もおもしろいといって1人で作業していました。また、久しぶりに依田さんが朝から全日田圃にやってこられました。本格的カムバックと一同喜びました。

2. 今後の予定

もみすり、畔補修…11月17日  
 収穫祭…11月23日（予定）  
 堆肥積み、天地返し…12月上旬。

明峯哲夫リーダー率いる、荒耕がらみず編の「奥農漁言」という本が出ました。野川の伝のたんぼづくりに関しても2ページ分技術的なものも掲載しています。回覧しますのでお読み下さい。

＜雑記＞

青少対の行事で二子玉川までサイクリングをしました。野川に添って走りましたが、喜多見の次太夫堀公園という所で稲刈りに遭遇しました。当公園は世田谷区が管理し、400年前に作った由緒ある用水路（次太夫堀）と水田（1反3畝）の他、民家などを保存しており、区民行事として田植え、稲刈りを始めて11年目とのことでした。700人も集まったというにぎわいもさることながら、JA、区などが全面協力の体制をとっているのが印象的でした。調布で似たような催しものを探すとすれば、JAまつりくらいかなと思いましたが、規模・雰囲気が全然違います。行政が出張らなくともザリガニ・ドジョウの棲む用水路と農地が残っている調布の現状を喜ぶべきか、農業環境保全に盛り上がりがない（ように見える）現状を不満と見るべきか。私としては、買ったザリガニを池に放し子らに釣らせる世田谷区の田圃公園よりも、調布の将来に住民としての希望を持ちたい所ですが…。

（文責 大木）



野川で遊ぶまちづくりの会・97年たんぼスケジュール

1. スケジュール (予定)

月 日	作業・行事	具体的作業内容	昼食
4/13 (日)	堆肥切り返し、除草	堆肥を天地返し。畔の除草など。	
4/20 (日)	苗代づくり	たんぼの一部をよく耕して苗代とする。	
4/26 (土)	種蒔き	種もみを苗代にまき、ネットを張る。	
5/18 (日)	堆肥いれ、耕耘	たんぼに堆肥を入れ、機械で耕耘する。	
5/25 (日)	くろつけ	畔の内側に水を引き入れ、泥をこねて畔に塗り付け畔を補強する。	要
6/14 (土)	苗取り、しろかき	たんぼ全面に水を入れる。苗を抜いて束ねる。機械でたんぼ全体をこね、ならす。	要
6/15 (日)	田植え	苗を手で植える。	要
7/6 (日)	一番草、七夕かざり	根の成育を促進させるため、株ごとにまわりの泥をかき回し、根に酸素と温度を供給する。	
7/27 (日)	二番草	同上	
8/3 (日)	虫捕り、(消毒)	メイガ類の幼虫を手でとる。必要があれば消毒。	
9/7 (日)	かかし作り	4~5体のかかしを作成し、たんぼにたてる。	
9/28 (日)	レンゲの種蒔き	翌年の肥料用のレンゲの種をまく。	
10/4、5 (土、日)	稲刈り、はざかけ	鎌で稲を刈り、竹で組んだはざにかけて干す。	要
10/19 (日)	脱穀	旧式の脱穀機で1日かかりで脱穀する。稲が籾と藁に分かれる。	要
10/26 (日)	もみすり	旧式のもみすり機で籾を玄米にする。	
11/9 (日)	収穫祭	もち米20kg程度をたんぼでついて食べる。	
12/7 (日)	落ち葉積み	カニ山から落ち葉を集めてたんぼの片隅に積む。	

2. スケジュールについて

- (1) スケジュールはあくまでも予定です。特に稲刈り以降の日程は気候条件によって変更することがあります。
- (2) 作業日に変更がある場合のみ、連絡網で変更後の作業日を連絡します。
- (3) 太字で書いてある作業はメインの作業で、人手が必要なので、特に優先して参加ねがいます。  
※具体的作業内容の詳細については「97年たんぼ報告書」別添を参照ねがいます。

3. 集合場所、時間、昼食、連絡先

- ・集合場所 たんぼ
- ・集合時間 原則10時
- ・昼食 原則各自用意。(炊き出しもやってみたく所望)
- ・連絡先 0424-84-4067 大木

## 堆肥のつくり方

## 1. 目的

- ①土を改良する…堆肥を入れると土が物理的に柔らかくなる。従って根が伸びやすくなる。空気も通り易くなる。  
また、ミミズや微生物が棲みやすい環境となり、ますます稲にとって育ち易くなる。
- ②稲の栄養となる…堆肥の中に含まれる窒素、リン酸、カリなどの栄養素が稲の体を作ったり、実を实らせたりすることを促進する。  
そのためにはそれら3大栄養素を堆肥が持っていなければならないが、稲作の場合、栄養素の量、効かせどころに注意しなければ、倒伏したり、収量が思うように上がらなかつたりする。
- ③化学肥料…3大栄養素がバランスよく配分された化成8号や、窒素分を主な成分とした硫酸など、いろいろな化学肥料がある。化学肥料の利点はなんといっても手軽に栄養素が投入できること、即効性があること。欠点は費用がかかること、土や環境に必ずしもよくないと言われていること。稲作においては、多肥は禁物と言われており、化学肥料の必要な局面は少ない。伸長期や登熟期の追肥には手軽で便利だが、「趣味」で稲作をしているものとしては安易に化学肥料の使用に流されず、肥料の手作りについて考えたいものである。

## 2. 堆肥のつくり方

- ①材料…まず、厚ベニヤ4枚と、垂木8本、ビニールシートを用意する。  
堆肥の原料としては、落ち葉、糠、鶏糞、草木灰などである。
- ②落ち葉の集め方…米袋を20袋くらい用意し、雑木林へ行く。リヤカーに熊手を積んで行くのを忘れない。時期は12月上旬頃。落ち葉を集め、米袋に積める。足で踏みこめばかなり詰まる。多少の枯れ枝の混入は気にしないが、ビニールなどゴミの類は除く。  
リヤカーで米袋を運び、ベニヤで囲んだ堆肥置き場にあける。
- ③堆肥の積み方…落ち葉、糠、鶏糞の順で積んで行く。1段ごとに水を掛け踏み固めるとよい。水は相当必要となる。鶏糞は稲作の場合余り必要ではなく、堆肥を発酵させる微生物の栄養としてあった方がよいと考えたい。  
例年当会では糠6袋(120kg)を投入。鶏糞については96年作成分は投入量はゼロであった。
- ④切り返し…発酵を促進させるため、月に1回位堆肥の天地返しをする。  
場所をずらしてベニヤで囲み、その中にフォークで天地返しをしつつ、葉っぱを移し、必要なら水を加え踏み固める。順調なら真冬でも湯気が立つほど発酵している筈である。
- ⑤施し方…当会では例年5月中旬。くろつけの前に堆肥を田にまき、耕耘機で耕している。  
しろかきの1か月以前であり、土になじむには充分だと思う。

## 3. 水田と堆肥

- ①水田の特性…水田の特性として、余分な栄養は水とともに地下に浸透し去り、足りない分は水に溶け込んだ栄養がカバーするといった、まことに都合のよい構造になっているらしい。  
また、水が土にはいると栄養素の還元作用が起こるなど土中の化学変化は相当なものらしい。したがって、稲を痛めないためにも、元肥をいれる場合の水の導入時期は田植えの1週間以上前とするなどのスケジューリングが必要であろう。  
また、水そのものが(正確には水に溶け込んだ栄養)養分であることを忘れず、施肥や水管理をしたいものである。  
具体的には3分けつ・6葉くらいのガッシリした苗ができた場合は、元肥ゼロとし、分けつ期、登熟期、落水期などに追肥する。また、稚苗、中苗の場合は、ある程度元肥を入れ、有効分けつ終期までに丈の長さを伸ばすことを考える、ことが必要である。

96.5.27

## くろつけの手順

1. 目的…田んぼの水漏れの防止。  
深水管理可能な状態とするため（理想的には作土の表面から40センチ水を蓄えられる程度）  
要するに、冷たい水を補充し続ける状態を避け、暖まった深水で初期の田んぼを満たすため。
2. 時期…田植えの1週間以上前。しろかきをするための水入れに1週間かかるとして、  
くろつけの乾燥期間も考慮し、田植えの2週間前位がベストの時期であろう。
3. 諸条件…水があること。当日の天候が雨でないこと（くろつけ後2～3日は雨のないことが望ましい）。  
必要最低作業人数は前日の準備に1人、当日3人（100坪当たり）。  
最低1回の荒おこしが済んでおり、作土が柔らかくなっている方がやりやすい。
4. 前日の作業

作業	手 順	用具	備考
溝きり	畔の内側に溝を切る。 幅はくわ2本分くらい。 深さは作土の深さくらい。 前年のくろを落とすとともに、畔の整形もしておく。 掘った土は溝の内側に盛っておく。 翌日土を戻すので盛り土を踏み固めないようにする。	平くわ (さく切り)	作業者は長靴でよい。
草刈り	畔の上部・内側の草を刈る（できれば根っこも取っておく）	鎌	
水入れ	溝に水を入れる 畔などがかなり水を吸い込むので1晩かけ流すくらいでよい		注水地点が掘れないよう手当てする。

## 5. 当日の作業

作業	手 順	用具	備考
水かけ	溝の水をバケツですくって畔の上からかけてまわる。 畔に泥がつきやすくなる	バケツ	作業者は泥に入るため、
畔の整形	最終的な畔の整形をする。きれいなくろつけをするためには土台の畔の形を整えておく必要がある。削り過ぎに注意（歩ける位の広さが必要）。 畔は前日から水を吸っているため整えやすくなっている。	平くわ 鎌など	靴下か、地下足袋の用意をする。
泥作り	内側に盛った土を溝の中に戻し、足で何度も踏みこねて、泥を作る。 泥は抜いた足の跡の穴が残るくらいの固さがよい。 水の流入による泥の緩みに注意する。 泥が緩い場合はスコップなどで更に土を加える。 作る泥の量は溝の容量と同量位を目途とする。 泥は少ないと困るので多めに作る。 十分に足でこねる、粒子は細かいほどよい。 また、泥は時間をおくと固くなるので注意する。	平くわ スコップ	くわや鎌を使うので、取扱に充分注意する。
泥塗り	作った泥を手ですくって畔に塗る。 両手で持って叩きつけるように塗って行く。 畔の上部、内側に塗る。 泥が流れ落ちたり緩んでくるようではだめ、牛の糞のようにベタッとのがよい。 厚く塗ること。 塗った後は手でだいたいならしておく。		作った泥は全部使うぐらいのつもりで塗って丁度よい。
なでつけ	塗り終えた後、溝に再び水を入れる。 充分水を入れること。 平くわを充分水に浸し、泥の表面をなで付ける。 畔の上部は押さえるようになで付ける。 畔の内側は壁を塗る要領でくわを滑らせて使う。 ひとなで毎にくわを水につけるようにするとよい。 なでた後の泥の表面につぶつぶや塊や凹面が残らないようにする。 泥の表面に何度も泥水をかけ、表面の細かい凹面を埋めるつもりでなでつける。 遠くから眺めて畔が真っ直ぐかどうか、また、大きな凸凹がないのかもチェックする。	平くわ	プロの農家のやり方を実見して見習うのがよいが、イメージとしては、壁塗りのつもりで仕上げる。
終了	溝に水がたまっている状態にしておく。 泥はすぐ乾くが1週間ぐらいは畔を歩かないようにする。		
フォロー	大きなひび割れは泥を塗り込んでおく。		

## 苗のつくり方

1. 品種… 95年には前年に作ったアキタコマチの自家採種分と新規購入のアキニシキをまいた。  
アキタコマチは食味はよいが茎が長く倒伏しやすい。  
アキニシキは食味はよくないといわれているが調布付近では古くから作られているということであり、丈夫である。  
もち米は丈が長くなるが倒伏しにくくまた、概して丈夫である。
2. 種もみの採種、保存、入手など
  - ①採種…脱穀時に手で必要な分の種もみをこそげ取る。脱穀機で脱穀すると大切な胚芽が傷つくかもしれぬという。(95年の種は脱穀機で脱穀したものだだったが結果オーライだったが)。  
ただし手でこそげると、つつい穂ごとちぎってしまい、種もみが一個一個バラバラになりにくい。
  - ②保存…乾燥した暗い場所に紙袋に入れて保存する。時々見てかびなどがいないかどうかチェックする。
  - ③入手…自家採種できなかつた場合、自家採種を何年か繰り返した場合(3年自家採種したら種を更新するという話を聞いたことがある)また、去年とは別の品種を作る場合など、新たに種もみを入手する必要がある。  
調布の農協では秋に種もみの注文を取っているようだが、品種によっては春になってからでも1~2升なら分けてくれる。(アキニシキ1kg、600円ほど)。  
96年は購入したアキニシキを2坪ほどまいたが、買った種は丸々としていて元気そうだった。
3. 種もみの選別、浸種、消毒
  - ①選別…一般的には塩水選別といって、塩水に種もみをいれて比重の低いものを選び分ける方法が採られる。当会ではこれまで真水選別しかしてこなかった。真水に種もみを入れても軽いものは浮かび上がる。それらは遠慮なくすくい取って捨てる。
  - ②浸種…選別した種もみを一定期間水につけその後の発芽を促す。  
つける期間は品種、苗代の種類によって異なる。アキタコマチを折衷苗代によって育てた時は、3晩程浸種した。畑苗代の場合は浸種しないやり方もあるとのことで、96年蒔種のアキニシキは浸水なしだった。発芽に3週間ほどもかかったが、無事芽が出た。  
また、浸種によって芽だしさせた後、まく方法もある。
  - ③消毒…温水消毒、薬品消毒などの方法があるが、当会では種もみの消毒を行ったことはない。  
たまたま消毒なしで育てているが、低温が予想される年など確実な収量を確保するためには、なんらかの消毒方法の実施も考慮に入れるべきであろう。
4. 苗代のつくり方
  - ①種類…畑苗代、水苗代、折衷苗代が代表的。当地区の農家は見ていると露地の場合は、畑苗代でやっている。畑苗代の場合、苗の育ちが遅いが、丈夫な苗ができること、田植えの時期がずれ込んでもある程度大丈夫なこと(苗の老化が遅いため)などの利点がある。  
もっとも当会の苗代は本田に作るため、くろつけ以降本田に水を入れる際ついでに苗代にまで水が回り、結果的に折衷苗代になってしまうことが多い。
  - ②切り方…1週間前に苗代用地を充分にたがやして、施肥しておく。  
機械で耕さない場合でも、土くれを手で砕くこと。幅はネットの幅に合わせる。面積は1反歩当たり15坪。排水用の溝を切るがその際苗代の肩の部分の崩れに注意する。  
全体を高くすると乾燥続きの際乾きやすくなる。
  - ③施肥…畑苗代の場合遅効きの堆肥をベースに、播種直前に化成8号を混ぜておく。尚、堆肥が完熟していないと苗の根が葉っぱに絡まり、苗取り時に困るとのこと。  
追肥は化成8号。石灰は入れないこと。肥料も大切だがいかに細かいふっくらした用土を用いることができるかが最重要である。
  - ④水やり…種蒔き時にある程度用土が湿っておれば、基本的にその後の水やりはしない。  
また、折衷苗代の場合、一度水を回した後に水を干すと土が締まるので注意する。
5. まき方
  - ①準備…浸種した後のぬれている種もみ同士はくっつくので、半日位前に水きりをして、新聞紙などの上において半乾にしておく。
  - ②量…2合/坪くらいをめどに、決して厚まきにならぬよう気をつける。
  - ③まき方…手で一握りし、すこしづつパラパラ落とすようにまく。  
戦時中は一粒づつまいたというから、薄まきにして困ることはないようだ。
  - ④覆土…種もみが隠れるより少し厚い位に振った土をかけ、木の板でたたいておく。雨が降ったくらいで種もみが出てくるようなら覆土の量が少ない。  
覆土2~3日後、様子を見て種が露出している場合再度覆土する。露出した種は発芽が非常に遅れる。

## 6. 防鳥

- ① ネット… ました後ただちにネットを張る。ネットの端はしっかり土に固定する。  
また、もみ殻薫炭をかけ、更にその上に刈り取ったレンゲを重しにおくなどという方法もある。  
余りにトラディショナルな方法で、一度試したくなるやり方だ。  
4週間程度、苗が4～5センチに育ったのを確認して、ネットを取る。ネットを取る時間帯は夕方がよい。(あるいは曇りの日がよい)。

## 7. 発芽から苗取りまでの管理

## (1) 追肥

- ① 時期… 3葉期(葉が3枚になった頃)から、苗が自活栄養(種の杯柔栄養期が終り、根が土から栄養を吸収し始める)となるので、追肥を行う。  
以後、葉が1枚増えるごとに(約1週間間隔で)追肥を行う。  
② 肥料… 液肥。当会では化成8号をそのままいたり、水にとかしてかけたりしている。

## (2) 水やり

水をかけたり、引いたりできる条件下であっても、のべつ水やりはしない。せっかく畑苗代で育て、苗の徒長を避けているのに、水を入れて徒長を促すようなことをしては畑苗代の特性をいかすことにならないからだ。  
もっとも、乾燥が続いたり、伸長が進まない場合など、苗代の側溝に水を回すこと。  
但しその場合も、冷たい水をかけ流さないようにする。

## (3) 雑草取り、バカ苗取り

雑草は全部取る、バカ苗も全部取る。  
バカ苗(七夕苗)とは、全体に茎が細く長く、ヒョロリとしていて、色が黄色い。慣れてくるとすぐ見分けがつく。植えても穂が出ないので、苗のうちに取り去る。  
雑草取りは時間がかかるが、可愛い苗たちを観察しながらじっくり行う。  
畑苗代の場合、乾燥し過ぎると雑草の生がよくないことがある。スベリヒユ、ペンペン草などしか生えないようだとも苗代が乾燥し過ぎかもしれない。

## 8. 苗取り

- (1) 時期… 苗代期間6～7週間。理想的には3分けつ・6葉期の丈夫な苗姿になったとき。  
そうした苗だと、1本植えて、深水管理ができ、ゆくゆくは倒伏しない丈夫な稲ができる。  
手植の場合、最低でも20～25センチ、理想的には30センチの丈が必要。丈が低いままでも、2分けつ・6葉令程度になれば田植え可能である。  
また、苗の茎は太くズングリとしていて、硬いほうがよい。目安は、炎天下で苗を抜いても、すぐへなへなしないこと、葉先がピンとしていること。

## (2) 準備

- ① 薬の用意… 束ねた苗を縛る薬を用意する。  
まず、薬のごみを取る。薬の穂先の方を握って、もう一方の手の指で薬の束を櫛削るようにする。  
次にごみを取った薬を暫く水につける。  
こうして用意した薬を1本づつ使用する。  
② 苗代への水入れ… 本田に苗代がある場合、苗取りとしろかきを同時に行う必要がある。  
そうしないと田植えまで苗を抜いたままでおいとかなければならなくなる。  
水を入れない「畑」の状態でも苗を抜くのが1番やりよいが、それから水を入れてしろかきするには時間がかかり過ぎる。それで、しろかき直前に苗を取る運びとなる。  
(しろかきを行うには水が田の表面に浮いている状態になっていなければだめ。当会の田の場合、そうなるには通常1週間程度取水口をあけて水を入れ続けなければならない。その時既に田んぼは「畑」状態ではなくなっている)

## (3) 苗の取り方、束ね方

片手で土ごと苗の株を分けるような感じで、抜いて行く。右手と左手を同じように使う。  
手が一杯になると苗を重ね、用意した薬で結ぶ。結ぶ前に根っこ側の位置をそろえる。  
結び方は、左親指で薬の端を押さえつつ一回し、ついで親指の上を一回しし、親指を抜いて隙間を作り、その中に回してきた薬の端を一回折って折り目をさし込みながら、最初に押さええていた方の端を引っ張って結ぶ。  
田植えの時は端を引っ張ると薬がほどける。

## (4) 田植えまでの保管

田植えの直前に苗を取るのが基本。当会のようにやむを得ず前日に苗取りする場合は、直射日光の当たらず、水温の高い場所に根全体が水に漬かるようにして保管する。

## しろかきのし方

## 1. 水の流入

- (1) 水源…当会の田んぼ用水の水源は、都立農業高校神代農場内の湧き水である。湧き水は近年、1年中水量豊かというわけでもないので、市立野草園の中にある井戸水を日中流して貰っている。例年、田んぼの取水口に堰を設けるとしろかきに必要の水は取水できていた。ただし、地区の田植えが6月に上流から一斉に始まり、上流のどこかが田植えのため堰を設けると下流の水量が途端に少なくなる。(当会の田んぼは下流から2番目) それでもまとまった雨が降ると一時的な雨水によって100坪の田んぼのしろかきには十分な水量が得られることになる。ところが95年、96年と用水路全体の水量がへり、用水の確保に苦しむ事態となった。96年などは農業高校の養殖池の水も辛うじてある程となり、田植えを1軒が行くと、下流には全くといってよい程水がこないのであった。同年春季の雨量は平年並みのようだったが、湧き水が減っているのであった。農業高校の先生も「水があればとくに下流に流してるよ。」と困っていた。当会の田んぼ周辺に別の水源があればポンプなどで吸い上げられるが、湧き水と雨だのみなのでどうにもならない。96年には上流の相田さんが畑状態で苗を移植する事態となった。いよいよ困った時には、上流の田植えが終わった田んぼの堰を一時的に開けて貰うか、地下水をあげて鰻を養殖していた村越さんにお金を払って地下水を汲み上げて貰うかなどの方法も考えなければならない。(現在モーターが故障中で96年度の利用は不可能)。ただし、96年は5月には水が比較的豊富にあった。5月中の田植えを予定したスケジュールを一考の余地あり。

- (2) 水量…田んぼは硬い基盤の上に柔らかい作土が乗った構造になっている。おおまかにいうと基盤を底としたプールが田んぼであり、そこに水が溜まらなければ作土全体が泥とならないのである。雨などで1度に多量の水が入るとたちまち田んぼは水浸しとなるが、半日するとその水は引いてしまう。ただし引いたといっても完全に地下に浸透したのではなく、まだ基盤の上に滞留している。この時期に再度同程度の水量の流入があると今度は水は容易に引かない。この時がしろかきに適した時である。目安としては、乾いた田に1度だけ大量の流入があった時ではなく、何回か水をかぶり作土が半ば泥状態になった後に(歩くとズブズブ埋まる程度)再度の流入があった時である。水は稲の大切な栄養源であり、成育を守る大事な環境であるため、できればきれいな湧き水をいつまでも使い続けたいものである。

## 2. 準備

- (1) 水路切り…くろつけが終了し、田植えの1週間前になったときから、取水口をあけ水をかけ流しにする。流入した水が効率よく行き渡るように、またすぐ蒸発せず、作土に行き渡るように、田んぼに縦横の溝を切る。流入した水はまずこの水路を満たし、次いで作土に浸透する。また、還元作用(土中の窒素が水の流入によって急激に還元する。根に影響を与えるとされる)を安定させるためにも、田植え1週間前の水入れは重要と考える。(本来は1週間前にしろかきを終了させたいが、当会の場合、本田を苗代としているので不可能) また、水いれの間、本田を子供の遊び場として放任し過ぎていると、作土がしまり過ぎ、保水力が弱まり、しろかきの効率も悪くなるので注意する。
- (2) 耕耘機の準備…耕耘機のタイヤを水田用の車に付け替える。付け替えは竹内さんなどは1人で行っていたようだが、コツをしらぬ我々は最低2人いたほうがやりやすい。

## 3. しろかき

- (1) 耕耘…必要なら直前に元肥をまく。当会では95年までは化成20kgを施していたが96年からは施肥しない予定。耕耘機で縦横十分に混ぜる。泥の硬さは抜いた足の跡が泥の力で自然にふさがりやすい。耕耘する深さは浅くて構わないという説が有力である。これはしろかきという作業の意味が、田植えのやり易さ、田植え後の苗の保護、水の保持、にあるためで、しろかきの優劣が活着、分けつなど稲の成育に直接影響しないということなのかもしれない。ただし当会のように土・日の素人田んぼ集団の田んぼにおいては、田植えのやり易さ、田植え後の水の保持の点からも、十分なしろかきは欠かせない。

尚、しろをかいている時点で、水の量が多いと思っても決して掻い出したりしないこと。水とともに、大切な栄養分が捨てられることになる。1日おくと水はほどほどに浸透しているものである。焦らないで、1日様子を見てから遅くはない。その都度に水を捨てたり足したりして調節することは、暖まった水を捨て冷たい水を足すことになり、稲にはよくない。極端な場合（大雨で畔から水があふれるような場合）を除き、開花時期までの水管理において排水ということは考えなくてよいようである。

- (2) 均し…次いで重要なのが均しである。表面が水平でないと田植え後に水が均等に行き渡らないなど稲の育成に十分な環境を提供できづらい。稲にとって、花が咲く時期までは水を切らさない（最低でも保水率100%が必要。田んぼがひび割れるようではだめ）において、根にとっての環境を急変させないことが大切だといわれている。
- 耕耘機を使った後、トンボを使ってできるだけ作土の表面を水平と合せる。
- ただし、泥を動かすというのは思いの外大変なので、しろかきの前に大体土を均等しておく（当会の田んぼはどうしても奥に土が片寄り気味になる）ことが大切である。

#### 4. 水が少ない時の対処方法

- (1) 陸稲…畑状態の田んぼに田植えをする方法。96年に相田さんが行ったやり方を見ていると、①まずよく耕す  
②苗は普通に苗代から抜く③手で植える。植えた後、根の回りの土をしっかりと押さえる。④事後ホースで散水する。という手順であったが、当然植えられた苗はシュンとしており、事後の天候によっては立ち枯れの危険があり、あくまで最後の手段であろう。
- ただし、もち米は比較的強いのであるいはこの方法でも大丈夫かもしれぬ。
- (2) 段階的しろかきと田植え  
隣の畑の三ツ木さんから聞いた方法。曰く「少しでも水が入るのなら、1列でも2列でもしろかきをして植えるんだよ。そうやってすこしづつやって行くしかない。一遍にしろかきしようたって今年は無理だよ。」とのこと。
- その言葉から考えるに、  
①用水路に水がたまった時点で、ポンプを使い田んぼの奥に水を入れながらしろをかく。  
②しろをかいた部分にだけ必要本数分苗を取り、田植えする。  
③田んぼに田植え後の管理水のためと次回のしろかきのための水路を切っておく。  
④用水路に水がたまったら上記の作業を繰り返す。
- となるが、この方法は日常細かく田んぼを見れる人向けのやり方で、日中の細かい水の管理ができない当会向けではないが（事後の管理水にも事欠くようだと田植え後の苗がダメになってしまう）、水不足で田植えの時期が遅れてしまった時には試してみたい方法である。
- (3) 大雨に合せた平日の作業  
これが一番現実的だろう。96年でいうと、6月13日が雨で、田んぼが水没するくらい用水路から水が流入した。ただし、15日がしろかきの当初の予定日であり、この時点ではスケジュールの遅れはなく、横目に見たまま田んぼを通過して出勤した。夕方には水は浸透してしまっていたが、田んぼが水を十分含んだこともあり、15日のしろかきは大丈夫だろうと思ったが、だめだった。
- 万が一、この時に会社を休んでしろかきしたとしたら、予定通り田植えができたかもしれない。
- その後、田植えの予定が伸びるにつれて、平日でも雨ならば作業しようと話し合っ、雨を待ったものの、しろかきできる程の雨はなかった。（6月28日現在）
- 通常なら1週間に1回程度の大雨が期待できる季節なので、この方法で対処できるものと思う。
- しろかきはあらゆる意味で1度に済ませてしまった方がよいので、スケジュールが遅れた場合でも、まずこの方法を考えた方がよい。